

い お き ひょうてい
五百木 飄亭 (1870~1937)



俳人。政治運動家。温泉郡小坂村(現、松山市)出身。本名は良三。小学校入学後、漢籍を河東静溪塾で学ぶ。はじめ、医師を志して明治18(1885)年、県立病院付設松山医学校に入学、その後大阪に出て医術開業試験に合格した。明治22(1889)年、ドイツ語研究のために上京し、東京で学ぶ松山出身の学生たちの寮である常盤会寄宿舎に入り、正岡子規らと俳句や小説に没頭するようになり、子規に「一種の天才」と評された。

明治27(1894)年、飄亭は日清戦争が始まると召集され、看護長として各地を転戦した。その間、飄亭は新聞『日本』に「従軍日記」を約1年間にわたって掲載し、好評を得た。戦争から帰国後、新聞『日本』に入社し、貴族院議長や学習院院長を務めた政治家の近衛篤磨の知遇を得たことにより、政治運動に力を注ぐようになった。

略歴

明治3(1870)年12月14日	温泉郡小坂村新場所に生まれる。
明治18(1885)年	県立病院付設松山医学校に入学
明治20(1887)年	大阪に出る。
明治21(1888)年	医術開業試験に合格
明治22(1889)年	東京に遊学。常盤会寄宿舎で正岡子規と知り合い、俳句・小説に没頭
明治27(1894)年	日清戦争に従軍し、新聞『日本』に「従軍日記」を寄せる。
明治28(1895)年	帰国して、新聞『日本』に入社
明治34(1901)年	新聞『日本』の編集長となる。
昭和4(1929)年	政教社を主宰し、雑誌『日本及日本人』を刊行
昭和12(1937)年6月14日	68歳で永眠。墓所は東京都港区南青山の青山霊園

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・山上次郎『歌人森田義郎と子規・飄亭』古川書房 1972年
- ・和田茂樹『愛媛文化双書36 子規と周辺の人々』愛媛文化双書刊行会 1983年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』愛媛県 1984年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年

〈主な収蔵資料〉…(P223, 121~122)